

ライフサイエンス事業

進化するライフサイエンスにおいて 目覚ましい成長を遂げ、 イノベーションを推進します

JSRライフサイエンスの社長としての私の役割は、まずライフサイエンス事業のグループ企業が有機的・無機的な成長戦略を成功させるために必要なリソースを確保することです。次に、市場に貢献できる新たな機会を模索することです。JSRグループは、先進的な技術を持つ各グループ企業の力を結集して、ライフサイエンス事業を拡大しています。

2022年度は、売上収益で75%の成長、営業利益で167%の成長を達成し、順調に推移しています。世界的な規制緩和によりCOVID-19関連の製品・サービス

は今後縮小すると見えますが、それ以外の分野の製品とサービスは2桁成長かそれに近い成長を継続します。2023年度は営業利益率がさらに上昇すると見込んでいます。

上席執行役員
ティム ローリー

事業の強み

- 抗体医薬品の創薬から製造まで一貫してプロセスを支援できる体制
- 高い知見・技術力を持つグループ各社間のシナジーを発揮
- 複雑な生物製剤の開発サポートを提供する能力
- 半導体事業で培った品質保証体制
- 哺乳類細胞株開発における世界クラスのモジュール技術と高度なソリューション
- 診断薬や生物生産産業向けに革新的な材料を提供

■ CDMO

複雑なたんぱく質の解析力を強みに、非臨床および初期Phaseから商業化まで一貫してサポートする独自の体制を構築

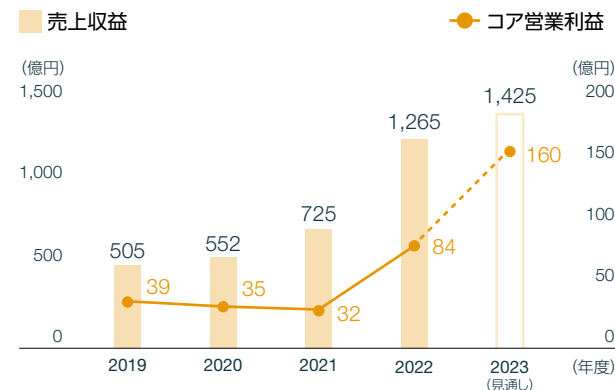
■ CRO

がん領域の創薬支援サービスでマーケットリーダーのポジション。世界最大のPDXモデル数をはじめオルガノイドなど疾患に関する先端的なプラットフォームを保有

事業環境認識

- 高齢化に伴う医療品需要の増大
- 個別化医療の進展
- 医薬品開発の効率化
- 急速かつ継続的な技術進歩

売上収益／コア営業利益



コア営業利益差異分析(前年度比)

	売上収益	コア営業利益	事業環境 (2023年度見通し)	
			1H	2H
事業全体	+75%	+167%		
CDMO	+50%程度	減益		
CRO	+25%弱	前期並み	→	↗
BPM	+15%程度	減益		
IVD	+200%程度	増益		

CDMO: バイオ医薬品の開発・製造受託

CRO: 医薬品の開発受託

BPM: バイオプロセス材料

IVD: 診断試薬材料

成長戦略

バイオ医薬業界のニーズに応え 目標を上回る成長を目指す

JSRグループのライフサイエンス事業は、マテリアルサイエンスを起点とする石油化学系事業で培ったポリマー技術を活用して医薬品製造で使用される材料を手掛けたことから始まり、バイオ医薬品開発・製造受託事業を行うKBI Biopharmaや細胞株構築受託事業を行うSelexis SAな

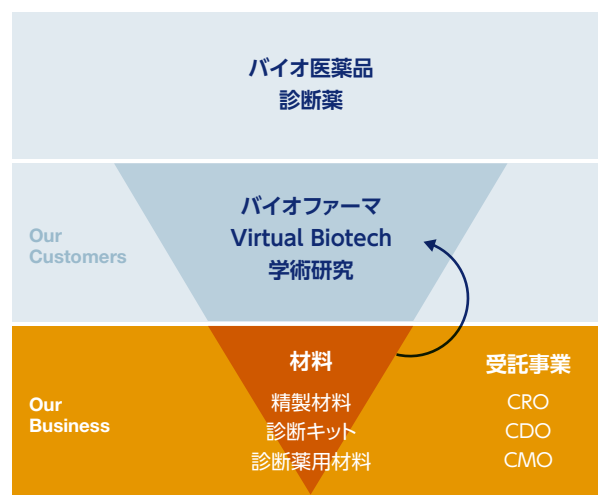
どの買収を経て、着実に拡大しています。そして、現在のバイオ医薬業界において課題とされている開発期間の長期化や開発コストの高騰などに対し、CROとCDMOによって貢献するとともに、独自材料を提供し、業界のニーズに応えています。

現在、ライフサイエンス事業は、売上収益の約半分をCDMO事業が占め、残る約半分はCRO事業、2021年に100%子会社化したMBL、自社材料（診断・研究試薬材料、バイオプロセス材料）が占めています。2022年度のコア営業利益率は6.7%でしたが、先行投資を売上収益拡大に確実につなげることでコア営業利益率の向上を図ります。

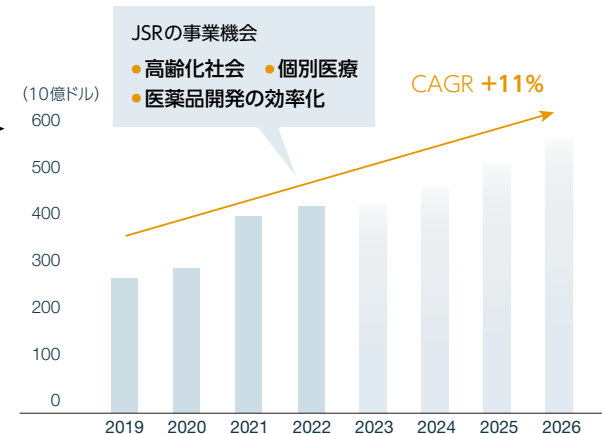
また、ライフサイエンス事業はまだ立ち上げ時期にあり、事業規模拡大やグループ間統合のさらなる推進による収益性の向上余地が大いにあると認識しています。コア営業利益率をさらに改善し、2024年度には売上収益1,000億円超、コア営業利益率で20%を目指します。また、技術開発などグループ全体のシナジー強化を進めます。

	売上収益高 CAGR+20%	コア営業利益率 20%
市場	規模 ● CDMO市場計：60億ドル (バイオ医薬品市場：4,000億ドル)	
	トレンド ● 高い成長 ● 精密医療分野の拡大	
社会的価値	● 医薬品開発の効率化 ● 一人一人にあった個別医療の実現	
強み	● 複雑なバイオ医薬品の開発サポート力	
戦略	● 顧客パイプラインの拡大による事業成長 ● ユニークな付加価値の創造	

JSRのポジション



バイオ医薬品市場



*JSR推定

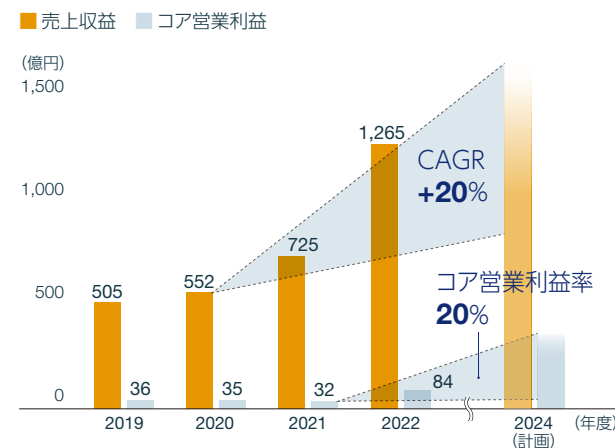
グループシナジーを強化し、さらなる事業成長を目指す

JSRグループのライフサイエンス事業は、バイオ医薬品の開発支援および診断薬材料、プロセス材料を販売しています。その中で、CDMO事業を担うKBI BiopharmaとSelexisの欧州における共同事業強化のため、スイス・ジュネーブに最先端のバイオ医薬品製造施設を新たに拡張し、また、米国・ノースカロライナには、KBI Biopharmaが顧客との共同プロジェクトを行うために、最先端のバイオ医薬品の商用生産施設を建設したことで、生産キャパシティがこれまでの約3倍（動物細胞）に拡大しました。これら両拠点がフル稼働した際には、売上収益への貢献が見込まれます。

さらに、2022年4月には、CRO事業のCrown Bioscienceと医学生物学研究所（MBL）が先進的な前臨床サービスを提供する合併会社を設立し、日本国内での成長加速を目指しています。

今後も、適切なリスクマネジメントを行いながら、CDMOとCROで事業成長を牽引すると同時に、グループのシナジーを強化し、オープンイノベーションを通じた次世代商品の開発を推進することで、市場の成長速度を上回る20%以上の売上成長率を目指します。

中期経営計画の進捗と見通し



グループシナジーを活かしたワンストップ体制

